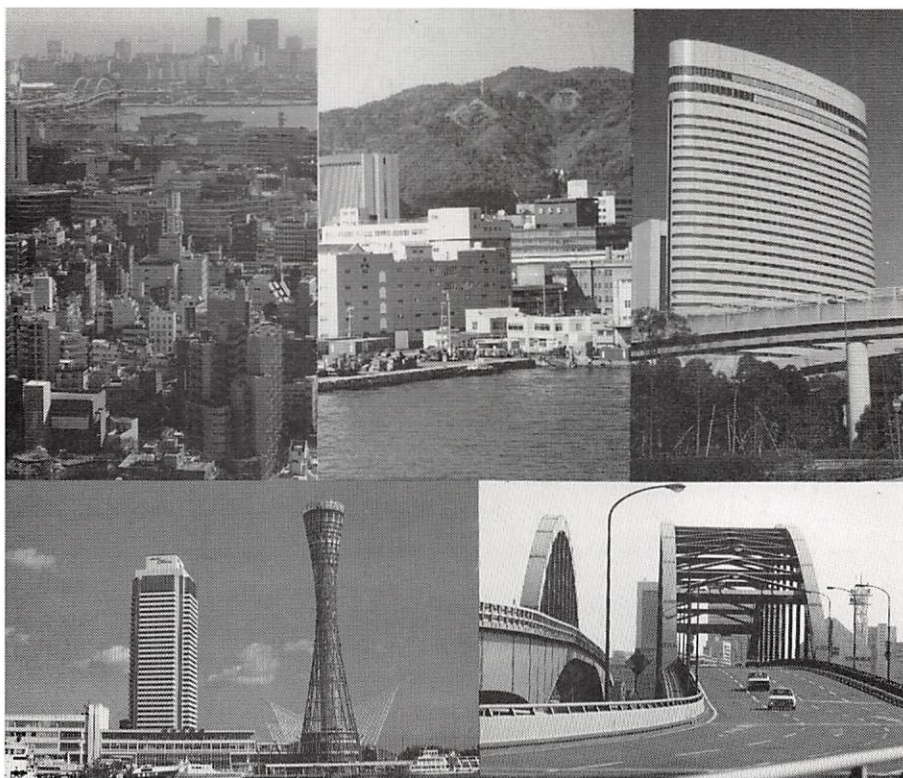




# JAPAN REGION

Vol. 8, No. 2

JANUARY 1990

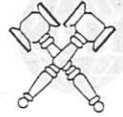


KOBE CITY

達成の道へ  
“TOWARD FULFILLMENT”

目 次  
CONTENTS

リージョン会長挨拶	Region President's Message	1
ITC会長受諾演説	ITC President's Acceptance Speech	2 - 3
ITC会則の修正について	Amendment of Bylaws	4 - 5
翻訳委員会便り	From Translation Committee	4
会計監査委員会	From Audit Committee	6 - 7
ITC基金について	From ITC Endowment Fund	8
増設委員会・祝チャーター	From Extension Committee	9
朗読研修を社会に向けて	Active Community Service Through Oral Reading	10
第8回日本リージョン大会	The Eighth Japan Region Conference	11
日本リージョン大会登録及び 食事予約申込書	Japan Region Conference Registration and Meal Reservation Form	12
ホテル宿泊予約申込書	Hotel Reservation Form	13
第8回日本リージョン大会準備委員	The Eighth Japan Region Conference Committee	
第8回日本リージョン大会プログラム	The 8th Japan Region Conference Program	15
来神を心よりお待ちしております	Eagerly Waiting for You in Kobe	16
各カウンスルよりこんにちは	Hello from each Council	17-20
会則とおつきあいの一年	The Year I Felt Intimate with Bylaws	21-22
随想・ある日の私	One of My Days	23-24
編集後記	Postscript	



新年にあたって

日本リージョン会長 バルク 良子

愛する会員の皆様、新年おめでとうございます。日本リージョンは急速に成長しております。

私達は世界中のITCリージョンの中で最も成長を遂げているリージョンです。今年こそ貴方が今いらっしゃる所で花咲き、ITCの他のメンバーが喜んで目的達成ができるよう助けていただきたいと思ひます。新年にあたり下記のことをお知らせいたします。

- 1) 1990年5月30日、6月1日に神戸で行われます日本リージョン第8回大会にITC世界会長 コーリン・ドーラン様が来日されることが決定しました。
- 2) 特別委員会の委員が次のとおり決まりました。
  - A) ITC世界大会準備委員会  
委員長 盛田純子(名古屋)、委員 新木昌子(名古屋)、Jean Joyce(阪神)、菊池悦子(阪神)、高柳恭子(名古屋)、鈴木宏子(名古屋)。  
任務の主なもの・1999年に世界大会を日本で開催するために必要な事柄を研究する。
  - B) 日本リージョン研究会  
委員長 鈴木美枝子(葵)、委員 泉和子(阪神)、置塩啓子(イースト神戸) 桑原美紀子(ひろしま)、早川住江(大阪)、藤原文子(都)、西尾琉璃子(鳥取)。  
任務の主なもの・日本リージョンの法人化の可能性について考える・事務局と事務所の在り方に付いて考える・ITCの活動を考える・委員会の任期を2年とし1990年7月に2年目の委員会の構成を考える。
- 3) 通信書記は古市愛子さん(阪神)にお願いしました。
- 4) 1990年4月6日から4月15日までディビジョンVI副会長ベブリー・スローン様ご夫妻が来日されることが決まりました。
- 5) 年会費について、「3月1日またはそれ以後入会した会員は年会費の半額を支払う」となっていますが、「2月1日またはそれ以降に………」と修正されました。

Yoshiko Burke A.C., 8th Region President (1989-1990)

A Happy New Year to All Members!

Japan Region is growing rapidly. We are the fastest growing ITC Region in the world! We must take more responsibility within our Division.

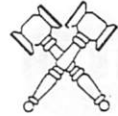
During the new year I hope you will bloom where you are planted to help others enjoy their fulfilled lives in ITC!

Report:

1. ITC official visitor at Japan Region 8th Conference (May 30 - June 1, '90) at Portopia Hotel will be ITC President, Corinne Doran, D.C.
2. Two Long Term Special Committees are appointed.
  - A) ITC World Convention Preparation Committee  
Duties are: to study & research opening the 1999 ITC convention in Japan  
Committee: Junko Morita, Chairman (Nagoya), Masako Araki (Nagoya), Jean Joyce (Hanshin), Etsuko Kikuchi (Hanshin), Kyoko Takayanagi (Nagoya), Hiroko Suzuki (Nagoya)
  - B) Japan Region Research Committee  
Duties are: to study the possibility of incorporation in Japan; to study Japan headquarters and Japan office; to study ITC activities.  
Committee: Mieko Suzuki, Chairman (Aoi), Kazuko Izumi (Hanshin), Keiko Okishio (East Kobe), Mikiko Kuwabara (Hiroshima), Sumie Hayakawa (Osaka), Fumiko Fujiwara (Miyako), Ruriko Nishio (Tottori)
3. Aiko Furuichi from Hanshin Club was appointed as a corresponding secretary.
4. Beverley and Peter Sloan, A.C., Div. VI Vice-President will visit Japan from April 6 to April 15, 1990.
5. Re. annual dues, the members entering after March 1 shall pay half of the annual dues; however, it has been amended to Feb. 1.



## I T C 会長 受諾 演説 ITC President's Acceptance Speech



第48回世界大会 ネバダ州ラスベガスにて  
48th Annual ITC Convention, Las Vegas, Nevada

Corine A. Doran, D.C.  
International President 1989-1990

### 未来の発展を育もう Foster Future Developments

この組織で最高指導者としての役割を果す責任を受諾したことを自覚することは、本当に身の引き締まる思いです。これまで大変上手に会を運営して来られた方々の足跡を引継いでいけるだろうかと考えてしまいます。しかし私は感激していますし、名誉に思っています。そして来たる年度を心待ちに致しております。

今までずっと私を支え、励ましてくれた友人、家族に深く感謝します。私のクラブ、カウンスル、リージョンの全会員の方々から、又世界中の何千という会員の方々から寄せられた信頼、会長職を執行する機会を与えてくださったことに、そして素晴らしい新役員の方々にお礼の言葉を述べさせていただきます。

私達は今、20世紀の最後の入口に立っています。バック・ロジャーズ時代（訳者注-1時代前のアメリカのSFの主人公）の到来を見てきました。過去10年の技術の進歩は、事実上もう時代遅れです。次の10年は私達の生活のあらゆる面に急激な変化が生じることでしょう。生きているのが楽しみな時代です。

さてITCはどうでしょう。私達は1990年代の世界に生きていても1950年代のスタイルの組織に属する会員でしょうか。私達は「明日に向かって考えなければならない」時期に来ています。広がりのある豊かな未来にするために新しい概念で10年先に焦点を合わせる必要があります。

昨年は決して容易な年でも苦しみのない年でもありませんでした。難しい決断や困難な実行を何度か余儀なくされました。しかしチームとして取組むことで多くの事を成し遂げることができました。

会員の利益が常に最優先なのです。会員のために経験豊かな、それでいて斬新なアプローチの出来る企画チームを適所に置いて、訓練や増設・広報といった分野で新しいプログラムを行うことに着手しなければなりません。

成功はみんなが係わり合うことによりもたらされます—お互いに係わり合い—事を成すにあたり、より新しい、より優れた方法を取るよう努力するという合意—そして最終的には皆が真に最良だと思う事に決定をくだし、いやくもそれ以下の事には妥協しない—という信念をみんなで分かち合うことです。

私達が達成出来る唯一の当面の限界は自分で決めたもので、その限界は常に今日の限界をはるかに越えて広げて行くべきだと思います。なぜなら、そうすれば限界はもはや限界ではなく、将来の可能性に通じる道となるからです。このようなダイナミックな精神には成長があり、更にはより素晴らしい明日への基盤があります。

過去5年間会員数が減少しているのは事実です。その事は5000人の人たちが育って、もっと大きなより素晴らしいものに向かって旅立って行ったと考えられないでしょうか。しかしながら私達はその2倍の人々を育てたと言えたらいいなあと思います。

現在の社会では、男性女性にかかわらず多くの事が要求される時代になって来ています。誰かがITCに入会すると決めたら、私達の責任で「時間に見合った」ものを保証しなければなりません。私達は将来の会員に多くの事を約束しています。だから入会時に求められたものが確実に得られるよう約束を守るように努め、行動しなければなりません。

時々私達は人生をスロットマシンのように扱う傾向があります。ここラスベガス大会にご参加の皆様が多くがカジノを通り抜ける時にスロットマシンで遊び、出来るだけ少ないお金で大あたりを望まれたことでしょうか。残念ながら世界中にあるITCのクラブの多くは、成長を望みながら投入するものは出来るだけ少ないことを望んでいます。しかし今では多くの人々がより多くを得るには、より多く与えなければならぬことに気付き始めています。他の人々を私達と共に成長するよう勇気づけるためには、私達は今までに学んで来たことを使い、実行し、分かち合う必要があります。ITCが真に最良となるためには選択肢の多い必要性を満たす必要があることに私達は気付き始めています。

私達はよく増設こそITCの生命であると聞いて来ました。今期28のクラブがチャーターされ、3200人以上の新会長を得たことを誇りを持って強調します。しかしITCはまだ世界で最も知られていない組織の部類に入っています。

私が南アフリカへの入国ビザを申請した時、旅券課はITCについて色々知ろうとしてワシントンから電話をかけてきました。その若い女性は今では私達が何であるかを理解しています。私は電話で15分間話し、沢山の資料を郵送しました。彼女が会員になるよう願っています。

私達が影響を及ぼすことの出来る範囲がいかに広いかが気付いていらっしゃるでしょうか。ITCを宣伝する機会を見逃していないか、じっくり考えてみてください。

私は最近家を売ってマンションに引越しました。25年間あれこれ集めていたので押入れを幾つも片付けねばなりません。もう必要のない古い物を沢山処理して新しい物を入れる場所を用意しました。私達の組織にも同じ事が言えます。私達が大きくなるにつれ慣習や伝統、手段、お互いに得るところが無いなら、人でさえ整理して新しいものに場所をあげ渡しましょう。変化を妨害するバリケードを取り除かなければなりません。この1年、そしてこの大会の期間中にも幾つかの変更が提案されたのを耳にされたことと思います。常規は数か所訂正され正しい方向への大きな一歩が派遣員たちによってこの大会から踏み出されました。これらの修正は数年前ならば異端と見なされていたことでしょうか。

変革が必要なのです。変革が大切なのです。人生はすべてその状況は日々変化しており私達もそれと共に変わります。私達が変わらなければ、しかも徹底的に変らなければ私達は生き残れないでしょう。

私達は直面している問題に押し潰されるより、むしろ私達の関心を挑戦からはずし、私達の考えや行動を今解決可能なものに焦点をさぼる必要があります。考え方を肯定的な条件に向けて行けば、共鳴し得る答えの扉が自ら開けるものです。心に留めておいて下さい。ひらめきと行動の組み合わせで、達成することに限界はないということ。

勇気を出して、期待を抱きつゝ、もう一度私達自身を活性化しましょう。扉を開けて一緒に未来の発展を育みましょう。これが私の来年度のテーマです。皆様ごきげんよう。

松田 公代(筑波クラブ) 訳



# I T C 会則の修正について Amendment of Bylaws



議会議長 置 塩 啓 子

## スタンダード会則

1989年度のスタンダード会則が1988年度のスタンダード会則とことなる箇所：

### A. クラブ

1. 第3条 会員 A項 会員 1.  
12名→10名
2. 第4条 財務 B項 年会費 2.  
3月1日→2月1日
3. 第4条 財務 G項 有資格クラブの条件
  - ① 1. a 12名→10名
  - ② 3. 12名→10名
  - ③ 3. 現行の文の最後に、次の4行を付加する。  
「その間、下記の権利を有する。
    - a. 上のレベルへ投票権を有する派遣員を送ること。
    - b. 上のレベルの役職に指名または選出されること。
    - c. 上のレベルのスピーチコンテストに出場者を送ること。」
  - ④ 4. の全文が下記ようになる。(5. は全文削除)  
「12カ月の猶予期間の後、有資格クラブとしてすべての条件が満たされるまで、下記の権利は保留される。
    - a. 上のレベルへ投票権を有する派遣員を送ること。
    - b. 上のレベルの役職に指名または選出されること。
    - c. 上のレベルのスピーチコンテストに出場者を送ること。」

以 上

### B. カウンシル

1. 第3条 会員 A項 会員 構成  
12名→10名
2. 第5条 選挙および役員の仕事 A項 役員 4.  
12名→10名
3. 第7条 会合および定足数 D項 投票権 1.  
(「有資格」に「※」が付き、2.の文章の下に1行空けて下記の説明文が記載されている)  
※ 「10名以下の会員で会計年度を始めるクラブは、納入期日の9月1日までに人数分の会費と費用を納入しなければならない。クラブは会員数を10名にし、有資格になるために12カ月の猶予が与えられる。その間下記の権利を有する。
  - a. 上のレベルへ投票権を有する派遣員を送ること。
  - b. 上のレベルの役職に指名または選出されること。
  - c. 上のレベルのスピーチコンテストに出場者を送ること。」

以 上

### C. リージョン

1. 第3条 会員 B項 有資格  
12名→10名 (この項は日本リージョン会則にはない)
2. 第5条 選挙及び役員の仕事 A項 役員 4.  
12名→10名

以 上

## リージョン会則

1989年度スタンダード・リージョン会則で必須条項とされ、「日本リージョン会則1988年6月8日修正」に記載されていないものを、次に記します。

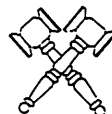
1. 第3条 会員 B項 有資格  
有資格クラブは組織のすべてのレベルに対して、最低10名分の会費と費用を納入し、ITC本部へ前年度までの未納会費および新入会員の会費の残金を清算していること。  
(現行の「B項境界線」はC項となる)
2. 第5条 選挙及び役員の仕事 C項 指名 3.  
役職について候補者が資格と必要条件を満たしているか確認する。  
(全文を以上のように置き換え、4. は全文削除、現行の5.、6. を4.、5. とする)
3. 第5条 選挙及び役員の仕事 E項 選挙(この項は下記のようなになる)
  1. リージョン役員選挙はリージョン大会においておこなう。(現行2.)
  2. リージョン大会が開催されない場合は、会計年度末以前に郵送による投票で選挙される。(現行3.)
  3. 選挙は無記名投票でおこなわれるが、候補者が一つの役職に1名しかいない場合は、口頭でおこなってもよい。(新)
  4. 役員はすべての投票数の過半数を得て当選する。(以下現行6. と同文)
  5. リージョン大会に派遣員またはその代理人により代表されていない有資格クラブは役員と指名委員の選出にあたって1票の不在投票権を有する。(現行4.)
  6. 次期会計年度初めから境界線設定によりこのリージョンに入るクラブは、その再設定が実施される直前に開催される大会に、派遣員または代理人を送ることができる。また派遣員を送れない場合は、役員と指名委員の選挙に不在投票をおこなうことができる。(新)
4. 第9条 委員会とその仕事 7.増設 増設委員長は
  - a. リージョン役員会の承認のもとに、リージョン会長により任命される。(新)
  - b. ITCの増設方針に基づいてリージョン内の増設を監督する。(現行a.)
  - c. リージョン内のカウンスルから増設チームをつくる。(新)
  - d. 経過をリージョン役員会に報告しそれをリージョン会長はディビジョン副会長に報告する。(現行b.)
  - e. ITC本部は新クラブの名称が重複しないことを確認し、支部設立許可番号を定め、同許可証を発行する責任を有する。増設委員長は直接ITC本部へ増設に関するすべての資料を送付する。(現行c.)
  - f. リージョン増設に関する費用は、リージョン増設費用でまかなうが、ディビジョン副会長に割り当てられているITC資金で補助する。(現行d.)
  - g. ITC増設要項に示されている通り北アメリカ以外の地域ではディビジョンが増設に関する資料を保管する。(現行e.)

以上

(訳語はITC会則日本語版にできるだけ従いました。)



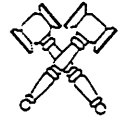
## 翻訳委員会便り From Translation Committee



翻訳委員長 土居和子

コミュニケーター9/10月号は第48回国際大会(ラスベガス)の記事で埋まっています。おなじみのジェーン・キッシンジャーさん、ルース・ラムさん等、40名の会員達が、大会に参加出来なかった世界中の会員達のために総力を結集してまとめあげたラスベガス大会の様子を網羅した記事を翻訳してお届け致しました。元ディビジョンVI副会長、新木昌子様が監修の労をお取り下さり41人目に加わって下さいました。又この大会を収録した全テープをバルク会長がお持ち帰りになり事務局で保存されています。

前号の英文コミュニケーターの小冊子(Scriptographic Booklet)のカタログ番号は#509ではなく#590で、昨年10編を完成して発売されました。翻訳部でもこの資料の翻訳を検討中で、その時には『会合のABC』ではなくて『議事法のABC』と言うタイトルで出版されることになるとでしょう。来春には新しい教育資料6編のご案内が出来ると思います。ご期待下さい。



日本リージョンの活動と資金の収支監査

会計監査委員長 戸 田 誠 子

どんな企業でも団体でも運営を行うために資金を集めること、支出を合理的に決めること、支出された内容が適切であることが原則である。

そのためには少なくとも会計の収入と支出が明確にされていることが必要である。

会計監査は、これを企業または団体の会員に代わって監査する立場にある。

- 1) 会計はガラス張りであるべきで、組織が健全に運営されるためには、健全な会計が必要であることをよく理解していないといけない。

会計の任務としては、組織の活動を理解し、お金の管理と出入を明確にして全会員がわかるように記帳することである。大企業であろうと、個人企業であろうと、ITCのように非営利の教育団体であろうと。

- 2) 会計は基本的には変わらないが、それぞれの企業の特徴を示す項目の違いはある。ITCの場合は、例えばインスタレーション、スピーチコンテスト等である。
- 3) お金を預かる会計は大きく出費するものに対しては、業者より見積りをとり、適切な内容と金額を示す支出先を選定する義務がある。
- 4) 請求書、納品書、領収書は必ず一つにまとめて月別にとじること。  
小さい金額でも領収書がないものは、支出の根拠がないと認められても仕方がない。
- 5) 会計の任務としては、会員からの問い合わせに対していつでも返答ができるように、お金の状態を整理・把握しておくべきである。
- 6) 会計の任務には、毎月のお金の出入の報告を必ず役員会です。そのためには会員は会計の整理がしやすいように月ごとにきちんと報告・請求をすることが必要である。

以上のようなことを会員の方々にわかっていただきたいと思います。会計はできるだけ複雑にならないようにすることです。

例えば、

クラブでは多額の繰越金などを特別行事に使う目的で積立金としているところも多いですが、その管理は選出役員であるクラブ会計がしています。

カウンスルでは、カウンスル例会の剰余金を次回カウンスル例会のコーディネーターに直接渡し、別会計にしているところもありますが、年度末には本会計にもどり、選出役員であるカウンスル会計の管理下にもどります。

リージョンでは、通常会計のほかにも今期から事務局会計、基金会計それからITC特別会計ができましたが、会計は一本化すべきでしょう。

最後に会計監査役としてのお願いですが、以上の件につきましてきちんといただければ監査はやりやすくなりますし、最後に印鑑を押すことができます。印鑑を押すということは、まちがいないと会計監査が証明し、責任をもつことです。

ご協力くださいますように。

## Activities, Funds, and Auditing of Japan Region

Seiko Toda, Chairman of Audit Committee

The principles of accounting of any enterprise or organization are to collect funds for operation, to allocate reasonable disbursements, and to keep disbursements appropriate.

Accurate recording of all the revenues and expenditures is the first priority of accounting. The auditor's duty is to audit the accounts on behalf of the members of the organization.

1. Accounts should be open to the public. We must understand that sound accounting is indispensable to sound operation of an organization. The treasurer is required to know the activities of the organization, and to keep an accurate report of monetary movements as well as the funds so that an ordinary member may easily understand them.
2. Be it a large enterprise, or a private company, or a nonprofit educational organization like ITC, accounting is basically the same. Items in disbursements, which stand for identity of the organization, are different from organization to organization. For example, "Installation" and "Speech Contest" are the prime items of expenditures in our organization.
3. The treasurer, who is the custodian of the members' money, has a duty, when an expenditure is quite large, to obtain estimates before selecting and deciding the business dealer.
4. A monthly file of bills, bills of parcels, and receipts is essential. However small the sum may be, without the receipt, a bill is to be judged groundless.
5. The treasurer must always provide an answer to any inquiry from a member. She has to keep accounts in order and to take charge of the funds.
6. Another duty of the treasurer is to submit a monthly report to the board meeting. Each member is, therefore, requested to cooperate with the treasurer by handing in bills regularly every month.

The audit Committee urges you, members, to understand these operations. Accounting ought to be simple. At clubs, a considerably large sum of balance forwarded from previous years may be set aside for some special occasions; yet the money is under the club treasurer's management.

Some councils hand over surplus money of one council meeting directly to the coordinator of the next council meeting. However, at the end of the fiscal year, the balance must be returned to the council treasurer's account. These transactions imply that the club/council treasurer is THE one who is responsible for the entire accounting of that particular group.

At the regional level, a new system was started this term where we have a general account, ITC Japan Office Account, Fund Account and ITC Special Account. All of this accounting should be managed by one treasurer.

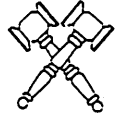
Finally the Audit Committee asks your proper participation in the above mentioned activities. Then auditing would be easy and the Committee would give the final signature and seal impression quite readily. In other words, by so doing, the Audit Committee proves the correctness of the accounting and assumes responsibility thereafter.

Your cooperation would be appreciated.



# I T C 基金 について

## From ITC Endowment Fund



日本リージョンITC基金委員長 田 中 あさ子

諸般の事情により委員会の出発が少し遅れましたが、皆様のご協力によって、ITC基金にできるかぎりの援助をしたいと思っております。具体的なことはまたおってお知らせいたしますので、よろしく願い申し上げます。

委員長 田 中 あさ子 (名古屋)

- カウンスルNo.1 嶋 田 凱 子 (東 京)
- カウンスルNo.2 藤 原 栄 子 (六 甲)
- カウンスルNo.3 武 内 靨 子 (関 西)
- カウンスルNo.4 太 田 恵 子 (ひろしま)
- カウンスルNo.5 安 藤 雅 恵 (豊 中)
- カウンスルNo.6 小 川 晶 子 (京 都)
- カウンスルNo.7 鶴 田 春 子 (鳥 取)

Asako Tanaka, Chairman of Japan Region ITC Endowment Fund

Due to inevitable circumstances, the activities of our committee have been delayed, but we have finally succeeded in starting. In spite of this, I am confident that with the support of all members, the Japan Region will not stint efforts to help contribute towards the ITC Endowment Fund. We will request further help as soon as we have decided on an expedient policy.

Committee Chairman: Asako Tanaka (Nagoya)

Council No. 1—Yoshiko Shimada (Tokyo)

Council No. 2—Eiko Fujiwara (Rokko)

Council No. 3—Hiroko Takeuchi (Kansai)

Council No. 4—Keiko Ota (Hiroshima)

Council No. 5—Masae Andoh (Toyonaka)

Council No. 6—Akiko Ogawa (Kyoto)

Council No. 7—Haruko Tsuruta (Tottori)

会報 Vol.17, NO.4 でご寄付合計をご報告いたしました。その後追加がございましたので改めてご報告いたします。

追加ご寄付 松江クラブ 42,100円、 南大阪クラブ 13,000円

前回報告合計 1,600,692円 → 今回報告合計 1,655,792円

なお、5,000円ご寄付の名簿に八木美恵子様、入江笑子様のお名前がもれておりました。お詫び申し上げます。

前期日本リージョン基金委員長 三宮晶子

The report on the ITC Endowment Fund was made in Newsletter Vol. 7, No. 4. In addition to that, we have received the following:

Additional Endowment Fund:

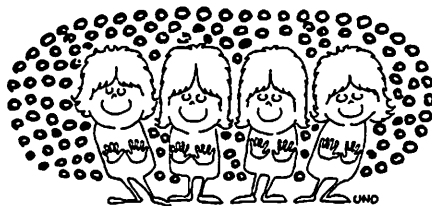
Matsue Club: ¥42,100; Minami-Osaka Club: ¥13,000

Total in the Last Report: ¥1,600,692; Total in the Present Report: ¥1,655,792.

We would like to make an apology for missing the names of Ms. Mieko Yagi & Ms. Shoko Irie who donated ¥5,000 each.

Akiko Sangu, Former Chairman of Japan Region Endowment Fund

祝  
チャーター



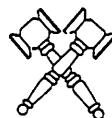
Congratulations!

飛騨高山クラブ  
Hida-Takayama Club  
Charter No 3454  
1989年9月25日  
会員数 30名  
会長 伊東 百々栄 Momoe Itoh  
住所 〒506 高山市初田町1-64  
TEL 0577-32-1166

千里クラブ  
Senri Club  
Charter No 3455  
1989年10月4日  
会員数 30名  
会長 春次 光子 Mitsuko Harutsugu  
住所 〒451 大阪市中央区博労町2-6-1  
TEL 06-245-1251



増設委員会  
From Extension Committee



増設委員長 鈴木 宏子

今期、日本リージョンでは5クラブ以上を増設すると云う目標を立てましたが、嬉しい事に11月1日現在、2クラブがチャーターされました。飛騨高山クラブ、千里クラブです。

他に各カウンスルの動きとして：

- No. 1. 名古屋、清水市、蕪崎市に芽生えがあります。
- No. 2. 御影にバイリンガルのクラブが誕生しつつあります。3月13日チャーター式典の目標。
- No. 3. 姫路市にもう一つクラブを。
- No. 4. 岡山市にもう一つクラブと、九州、福岡に手掛かりを求めたい。
- No. 5. 堺、和歌山の方へ発展させたい。
- No. 6. 滋賀県に働きかけています。
- No. 7. 出雲市に芽生えがあります。

ITCの組織の発展と、日本リージョンが発展する為には、無理にでなく、新クラブを誕生させ、若いクラブを健全に育て、次代を担っていたゞく会員が沢山出て来ていたゞかなくてはなりません。増設委員達はアンテナを高く掲げて、一つの動き、芽生えも見のがさないように働いていますが、会員の皆さまよりの情報、協力が不可欠です。上に述べましたカウンスルの動きの中に、ITCに相応しいと思われるお知り合いがいらっしゃいましたら、是非カウンスル増設委員長迄御紹介ください。

Hiroko Suzuki, Chairman of Extension Committee

This term, Japan Region board has a goal to extend five more clubs. Fortunately by November 1st two clubs have been chartered—Hida-Takayama Club and Senri Club.

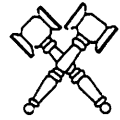
We have other movements:

- Council No. 1 Nagoya, Shimizu and Nirasaki Cities
- Council No. 2 Bilingual organizing unit in Mikage, the goal to hold a charter ceremony on March 13.
- Council No. 3 In Himeji
- Council No. 4 In Okayama and in Fukuoka, Kyushu
- Council No. 5 In Sakai, in Wakayama area
- Council No. 6 In Shiga area
- Council No. 7 In Izumo

For the development of ITC and Japan Region, we must establish new clubs naturally and continuously and bring up members to support the next term of ITC. We, members of the Extension Committee, are holding up our antennas to catch any tiny movements and sprouts of extension. But we need news and help from you members of ITC. If you have friends who are prospective members of ITC and live in the above-mentioned district please introduce them to us.



## 朗読研修を社会に向けて Active Community Service through Oral Reading



朗読研修委員長 大野 三恵子

朗読研修会は、日本リージョンの長期計画「1990年度までに社会還元を」との目標をもってスタートしてから5年目に入りました。現在、東京、名古屋、阪神、山陽、山陰地区に7グループが育っています。研修内容は、基礎的な発音、発声の訓練から、より高度になると表現方法や、テープに録音する時の技術などにまでわたります。参加者の多くは、指導を受け練習し、人の朗読を聞くというプロセスに自己啓発をはかるというITC訓練の意義を見いだしています。訓練を積んだからといって、すぐに専門家のように朗読できるわけではないのですが、こうして積み重ねたものを社会還元へ向けて形づけたいと、各グループは今、積極的に考えています。

例えば、名古屋地区のグループは老人医療専門の東樹会病院にメンバーが代りあって訪問しています。童話、民話、歴史、お経の解説等、さまざまな分野のものを手がけて3年になります。阪神地区の1グループのメンバーは朗読奉仕「グループあし笛」に所属し、芦屋市立図書館のテープコーナーにそれが置かれています。又、他のグループでは病床のお年寄りに「奥の細道」のテープを送られたところ、「まるで自分が旅をしているようです」と喜ばれています。京都在住のメンバーは、京都ライトハウスで朗読奉仕をさせていただくための手がかりとして、認定試験を受けてみる予定です。漢字の読み方やアクセント等のテストがあり、一度でクリアできるような生やさしいものではなさそうですが、挑戦してみる積りでいます。このように各地において、少しずつ行動をはじめていますが、私達の知る範囲は限られています。もし皆様のお近くや、お知り合いの中に朗読を望んでおられる施設や、グループなどがありましたら、委員会まで御連絡下さい。各地のグループと連絡をとりあって活動してゆきたいと思っています。

### Mieko Ono, Chairman of oral Reading Training Committee

We are pleased to report that, in the five years since the Oral Reading Committee of the Japan Region embarked on its Long-Term Plan titled "Active Community Service by 1990," the Tokyo, Nagoya, Hanshin, Sanyo and Sanin clubs have continued to grow and develop. The contents of our study have progressed from the basics of pronunciation and voice training to more complex topics including methods of expression and tape-making techniques. As students progress in their studies, their tapes and oral readings provide other students with beneficial materials through which they can see, and of course hear, firsthand how effective the ITC training method of instruction and practice really is, further fueling their motivation.

Although one cannot quickly reach a level of Oral Reading expertise through repeated practice alone, each group is devoting its utmost efforts and energies to building up a wealth of experience with the hope of being able to offer society, in particular the local communities that have given them so much, some beneficial service.

Here are some examples of the recent efforts of Japan Region groups. Members of the Nagoya group take turns visiting the Tojukai Hospital, a facility specializing in medical care for the elderly. For three years they have brought folk tales, children's stories, historical tales, religious stories and chants, and materials from various other fields to residents at Tojukai. In the Hanshin area, members of one group are also participants in the Oral Reading service group "Group Ashibue," and have placed taped materials in the Tape Corner of the Ashiya City Public Library.

Another group has brought the magic of travel to bedridden elderly by presenting them with tapes of Matsuo Basho's famous poetical journey, "Oku no Hosomichi." After listening, one grateful recipient happily commented, "It was just like taking a journey myself!" And members living in Kyoto, in order to be of service to the "Kyoto Lighthouse" organization, are planning to take the relevant authorization examination. With various skills being tested, including accent and the proper reading of the Chinese "kanji" characters used in Japanese, the Kyoto members know that the test won't be easy and that perhaps they won't be able to pass on their first try, but all of them are looking forward to the attempt.

As you can see, our members are actively working to be of better service. But try as we may, there are still limits to our knowledge, and so we would like to take this opportunity to ask everyone to take a look around your neighborhood, and to ask friends and acquaintances, with an eye to identifying facilities that might find our services useful. Please contact a member of the Oral Reading Committee if you have any ideas or information. Groups in each area are encouraged to cooperate with the hopes of making further progress and staying well-informed.

We're looking forward to hearing from you!

大会コーディネーター 泉 和子



今期の大会テーマは「Bridge Builders」です。コミュニケーションを大切にするITCの50にも及ぶクラブとクラブが友情のかけ橋を架けることが出来るようにとの願いを込めたBurke会長のテーマにふさわしいように、私共準備委員会は、沢山の会員の方々が気持ちよくご出席くださり、会員相互の友情の手が結ばれ価値のある実り多い研修がなされるよう全力を尽して準備を進めております。この会報には「登録」、「食事」、「ホテルの予約」の申込書と「観光案内」を掲載いたしました。各クラブの会計がまとめて4月15日迄にお申し込みください。尚、変更、取り消し等の連絡も個人からではなくクラブ会計を通して頂きたいお願いいたします。全国各地からお一人でも多くご参加くださいますよう心からお待ちしております。

Kazuko Izumi, Conference Coordinator

The theme for the coming conference will be 'Bridge Builders', as selected by President Burke with her wish to build a bridge of friendship among the 50 ITC clubs and to make much of communication. Therefore, the members of the preparation committee have been working with all our might to prepare to have many members cheerfully join hands of friendship among the members and participate in valuable workshops.

Application forms for registration, meals, reservation for hotels and a notice about sightseeing are included in this issue. Each club should get together and the club treasurer should send in their applications by April 15th. The club treasurer is also responsible for any changes and cancellations.

We expect many members from the whole country to attend, and we are looking forward to seeing you.

表 Awards 彰

リージョン大会(5月31日・6月1日)での表彰

- A) 新入会員最多紹介者
- B) 20年継続正会員
- C) フルメンバークラブ(30人)
- D) 所属クラブの平均最多会員数のカウンスル
- E) 増設クラブ最多数カウンスル
- F) 資格認証課程最多ポイントのクラブ

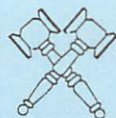
Awards will be given to the following group at Region Conference: (May 31-June 1, 1990)

- [1] The member who has introduced the most members to clubs.
- [2] 20 year continuous members.
- [3] Full member club (30 members).
- [4] Council with highest average club membership.
- [5] Council with most (Extension) new clubs added.
- [6] Club with highest points in accreditation.



1990年

## 日本リージョン大会登録及び食事予約申込書



## Japan Region Conference Registration and Meal Reservation Form

◎ この両頁とも各自必要な事項を記入し、コピーしたものをクラブ会計にお金をそえて、お申し込みください。

Please fill out this form on both pages individually and submit a copy of it to your Club Treasurer with the money.

フリガナ 会員名 Member	_____		役職 Office	_____		(兼任の場合は上部レベルを)
ゲスト名1 Guest	_____	2	_____	3	_____	
登録費 (Registration)	会員		¥ 4,800			円
(Guest Fee)	ゲスト	1日 1 day	¥ 2,000	名		円
		両日 2 days	¥ 4,000	名		円
				Number of guests		
欠席者協力金 (Cooperation Fee)	¥ 1,000		フリガナ 会員名	_____		円 Yen

## 食事予約申込

## Meal Reservation Form

			会員名 Member	ゲスト名 Guest	
5月31日(木)	昼食	¥ 2,000	_____	_____	円
May 31, Thursday	Lunch				
5月31日(木)	晩餐	¥ 10,000	_____	_____	円
May 31, Thursday	Banquet				
6月1日(金)	昼食	¥ 2,500	_____	_____	円
June 1, Friday	Lunch				Yen
登録費及び食事代総合計 Registration and Meals Total					円 Yen

申込締切日 : 1990年4月15日 5月25日以降のお取消しは返金いたしません。  
Registration deadline April 15. No refunds after May 25.

◎申込み及び変更は必ずクラブ会計を通し、またクラブ名を明記してください。

申込書送り先: 南部紀代美 〒560 豊中市向ヶ丘1-54-1-1201 (TEL)06-848-5088

送金先: 郵便振替 口座番号 大阪1-115400

名称 南部紀代美

〔登録委員長: 渡辺百合(阪神) (TEL)078-851-8509、登録会計委員長: 南部紀代美(阪神)〕  
〔食事委員長: 今井京子(イースト神戸) (TEL) 0798-53-9040〕



ホテル宿泊予約申込書  
Hotel Reservation Form



神戸ポートピアホテルの宿泊についての手続きは、宿泊委員会でお世話いたします。  
各クラブでまとめて、委員長までお申し込みください。

Arrangements have been made by the Accommodations Committee for reservations at the Kobe Portopia Hotel. Consolidate by club and forward to Accommodations Chairman. Yaeno Ota

申込書送り先：太田弥恵乃（甲南）

〒657 神戸市灘区鶴甲二丁目3-3-302 [TEL] 078-821-5634

締切日：1990年4月15日

Reservation Deadline: April 15, 1990.

フリガナ

会員名

Member

クラブ名

Club

カウンスルNo

Council No.

シングル

Single ¥9500

ツイン（一人につき）

Twin ¥8500 each

5月31日（木）May 31

6月1日（金）June 1

同室希望者名（ツイン）

Name of person sharing accomodation

”

\* キャンセル締切日：5月25日（金）Deadline for cancellation: May 25, 1990

前日のキャンセルは50%、当日のキャンセルは全額いただきます。

For cancellation made on reservation date: full charge; for day before: 50%.

\* お支払いは、各自チェックアウトの時にお願い致します。

Payments to be made individually when checking out.

\* チェックイン（13：00）・チェックアウト（12：00）

Check in (13:00) Check out (12:00)

\* 二人部屋をご希望の方は、二人で組んでお申し込みください。

Twin accommodations should be applied for in pairs.

\* 宿泊料金には、いずれも朝食・税金・サービス料が含まれています。

All quotations are inclusive of Breakfast, Tax, and Service Charge.

ポートピアホテル 所在地

〒650 神戸市中央区港島中町6丁目10番地-1 [TEL] 078-302-1111

第8回日本リージョン大会準備委員会  
The Eighth Japan Region Conference Committee

委員会	委員(クラブ)	委員会	委員(クラブ)	委員会	委員(クラブ)
大会委員長 Coordinator	泉 和子(阪 神)	キット Kits	○山根万佐子(宝 塚) 井上 芳子(宝 塚) 入江 和子(宝 塚) 堀 容子(宝 塚) 種継 真澄(宝 塚) 土屋久美子(宝 塚)	登録 Registration	○渡辺 百合(阪 神) 立野知津子(阪 神)
副委員長 Co-coordinator	柳川 公子(甲 南)			登録・会計 Reg. Treasurers	○南部紀代美(阪 神) 中野 誠子(阪 神)
会計監査 Audit	○三宮 晶子(阪 神) 井上 保子(阪 神)			宿泊予約 Reservation	○太田弥恵乃(甲 南) 一幡 知子(甲 南)
大会会計 Controllers	○長瀬 玲(甲 南) 三木 和美(甲 南)	食 事 Meals	○今井 京子(E・K) 奥沢 節子(宝 塚) 八木 玲子(E・K)	会場備品 Properties	○横山 末子(六 甲) 堀本 弘恵(六 甲) 後藤 侑子(六 甲) 松本 昌子(六 甲) 村田 昭子(六 甲) 米良 いく(六 甲) 柚本加代子(六 甲)
企画デコ レーション Decorations	○森沢 正子(甲 南) 平岡 英子(甲 南) 岩田 洋子(甲 南) 佐々木修子(甲 南)	名札・ リボン Name Tags	○スペーサー絢子(E・K) 泉谷 智恵(E・K) 宮本 直子(E・K) 中明 博美(E・K)		
余 興 Entertainment	○尾上美千代(神 戸) Graham Drothy(神 戸)	ペ ー ジ Pages	○酢谷 道子(甲 南) 畑中 弘子(甲 南) 久保 光子(甲 南) 高橋 俊子(六 甲)		
接 待 Hospitality	○秋沢 珪子(阪 神) 芳賀 順子(六 甲) 羽尾 則子(E・K) 井上 智雄(宝 塚) 加藤 啓子(甲 南) Rappe Lillian(神 戸)	写 真 Photographs	○藤原 栄子(六 甲) 各カウンスル 歴史委員各一名	物品販売 Sales	○塩崎真喜子(六 甲) 伊知地香代子(六 甲) 村上 玲子(六 甲) 森谷スミ子(六 甲) 田村喜久子(六 甲) 矢野 通子(六 甲)
ホスピ タリティ (本部室) (Head Office)	○立花 真琴(神 戸) 福田 瑛子(E・K) 神吉 初美(神 戸) 山岸 悦子(神 戸) 安井 紘子(神 戸)	プログラム プリント Printing	リージョン プログラム委員会	観 光 Tours	○土居 和子(E・K) 杉谷 和代(E・K) 田代 律子(E・K)
インフォ メーション Information	○長澤 久子(甲 南) 小山 一子(宝 塚) 佐々木和子(宝 塚) 堤 アヤ子(宝 塚)	儀 典 Protocol	○横山 幸子(阪 神) 川口 敬恵(阪 神) 山本須奈見(阪 神)	VIP接待 VIP Hospitality	○八日市屋多栄子(神 戸) 井上 智雄(宝 塚) Moghbel Mahin(阪 神) Oberlein Evelyn(阪 神) 小島百合子(阪 神)
		広 報 Public Relations	○広瀬 忠子(阪 神) 石村夫紀子(甲 南) 小田久仁子(甲 南)		

○印は委員長、委員会名委員名はアルファベット順

第8回日本リージョン大会プログラム  
The 8th Japan Region Conference Program

5月30日(水) Wed. May 30		神戸ポートピアホテル Kobe Portopia Hotel
9:50	登録	Registration
10:00~12:00	リージョンマネージメントトレーニング	Region Management Training
12:00~13:00	昼食	Luncheon
13:30~16:00	カウンスルマネージメントトレーニング	Council Management Training

5月31日(木) Thurs. May 31		神戸ポートピアホテル Kobe Portopia Hotel
8:30	登録受付	Registration
9:00~9:45	派遣員説明	Briefing for Delegates
10:00~	開会式、ITCインフォメーション	Opening Ceremony, ITC Information
11:00~	ビジネス	Business
12:20~13:20	昼食	Luncheon
	選挙(派遣員のみ)	Election (Delegates only)
13:30~14:30	スピーチコンテスト(英語)	Speech Contest (English)
14:40~16:10	教育セッション A) (外部講師による) B) 4種類のワークショップ	Education Session A) (Guest speakers) B) Workshops (4 groups)
	休憩	Recess
17:10 17:30~20:30	登録受付 晩餐会、表彰、余興 役員就任式	Registration Banquet, Awards, Entertainment Installation of Officers

6月1日(金) Fri. June 1		神戸ポートピアホテル Kobe Portopia Hotel
9:00	登録受付	Registration
9:30~	ビジネス	Business
10:30~12:00	教育セッション C) ITC世界会長による ワークショップ(日英) D) 6種類のワークショップ	Education Session C) Workshop by ITC President D) Workshops (6 groups)
12:30~13:40	昼食、アフターランチントーク	Luncheon, After Luncheon Talk
14:00~15:40	スピーチコンテスト(日本語)	Speech Contest (Japanese)
~16:50	報告、閉会	Announcements, Adjournment

— 来神を心よりお待ちしております —

観光委員長 土 居 和 子

過日各クラブ会長を通じて行いました観光準備に関するアンケート調査にご協力下さり有難うございました。39クラブ(284通)より回答を頂き、クラブ単位で集計いたしました結果は下記の通りでございます。

市内観光	27クラブ	グルメ情報	29クラブ
買物情報	30 "	港のクルージング	11 "
ホテル探訪	6 "	新人工島探訪	17 "
ドライブガイド	4 "	花の博覧会	28 "
瀬戸大橋	6 "		

ご回答を読ませていただき痛感いたしましたことは、会員の皆様方がいかに熱心にリージョン大会そのものに興味を持ち、密度の濃い大会のスケジュールを消化することに力を注ごうとなさっているかということでした。そこで観光委員会と致しましては、皆様のお邪魔にならない程度に神戸の市内観光、グルメ、買物、新人工島などの情報をスクラップブックに整理して所定の場所に置き、ビジネスやワークショップの合間にご覧いただき、少しの間、誌上での神戸の旅を味わっていただいております。会場のポートピアホテル周辺には次々に新しいホテルやレストランが開設されており、3年前ここを訪れた方々もその様変りに驚かれることでしょう。花博につきましては、関西での特別行事でもございますので色々なパンフレットをお持ち用に用意させて頂きたく思っております。来神の良き思い出作りに何かお役に立てれば幸いです。

Eagerly Waiting for You in Kobe

Kazuko Doi, Chairman of Sightseeing Committee

The result of the questionnaire that our committee distributed through each club President was as follows:

Sightseeing	27 clubs	Gourmet	29 clubs
Shopping	30 clubs	Cruising	11 clubs
Hotels	6 clubs	Port & Rokko Islands	17 clubs
Drive Guide	4 clubs	Seto-Bridge	6 clubs
The Int'l Garden & Greenery Expo., Osaka			28 clubs.

39 clubs (284 members) out of 50 returned the questionnaires. Thank you for your cooperation. After reading the result of the questionnaire carefully, we have decided to make a couple of information books and furnish all information which may interest you in them. We will be delighted if you open the pages of the books and find some places you might be able to find time to visit or even make a little imaginary excursion to while having a break during the business or the workshop time. There have been many changes around the Portopia Hotel area, and we believe those who have visited this area before will get a pleasant surprise by finding many new places to see as well as to eat and shop in. Since the International Garden & Greenery Expo. is a big event in the Kansai, we will gather as many interesting printed materials as possible for you to take home. Looking forward to seeing you all in Kobe.

# 各カウンスルから こんにちは!!

## カウンスルNo. 1

レトリックってご存じですか?

第1副会長 竹内 汎子

映像を素材としたパネルディスカッション

— 現代レトリックからの問い —

◆ VTR "WAR OF WORDS"

◆ パネルディスカッション

パネルディスカッションは、初めに各パネリストによるポイント指摘。次に全員でVTRを見て、ディスカッションに入りました。各パネリストによる意見発表が5分ずつあり、モデレーターの司会で質疑応答。フロアからも多くの質問が出て、活発な意見の交換がなされました。今回、「現代レトリック」という学問的にも新しい大きな課題に取り組んだのは、聞き手の立場からも話し手の立場からも必要であると考えたからです。この聞きなれない言葉を何の事と思われませんか。「話し手があらゆる手段を用いて自分の考えを聞き手に伝える説得法」とお考え下さい。マスメディアの発達した現在、巷には情報が満ちあふれています。私共は、それに惑わされない様受け止め、評価、分析し、自分に必要なもののみ取り入れねばなりません。又、異文化交流が盛んな今、相手の言葉を正しく受け、自分の考えを相手に伝える説得力も身につけなければなりません。情報化、国際化の現在、言葉はなくても相手の気持ちを察するを善しとする日本人にも、現代レトリックが必要な時代となりました。夏休みを返上して、勉強して下さいましたリーダーの宮崎さんはじめ、御参加下さいました皆様に、心から感謝申し上げます。

## カウンスルNo. 2

美しく生きるために

第1副会長 畑中 弘子

カウンスルNo.2からは、六甲クラブ(1989年1月例会)のプログラムを紹介いたします。

テーマは「美しく生きるために」パネルディスカッション形式で、6人のパネリストが6つの分野からスピーチをおこなった。

1. 健康面から……自分の生活を意識的にコントロールできるように。 2. 食生活の面から……ビタミンやミネラル、食物繊維の摂取。

## Council No. 1

Do you know what Rhetoric is?

Hiroko Takeuchi, 1st Vice-President

Panel discussion by use of a videotape

—A Question from Modern Rhetoric—

◆ VTR "WAR OF WORDS"

◆ Panel Discussion

Prior to the VTR, each panelist briefly pointed out the focal point. All participating members watched the VTR and started the discussion. 5 minutes was given to each panelist for the presentation of their views on the VTR, which was followed by a question and answer period presided over by the moderator. There were many questions from the floor, and discussion proceeded quite lively. The reason why we selected such a broad and new area as "Modern Rhetoric" even in the academic field is that we felt the need to study modern rhetoric from the stand point of both speakers and listeners. What do you think the following unfamiliar sentence means? "A method of persuasion should be employed by the speaker with every possible means for the purpose of making the speaker's ideas understood by the listener." This is what modern rhetoric is aiming at. With the development of mass media in this modern age, we are exposed to an overwhelming amount of information. We must receive, evaluate and analyze it without being deceived, and adopt it according to our needs. Our time is also characterized by various intercultural exchanges. In this sense also, we have to receive the message correctly and to acquire the ability of persuasion in order to convey our message. In the era of information-orientation and internationalization, the time has come for the Japanese people, who think it is a virtue to understand the other's mind without words, to make use of modern rhetoric. Lastly, I would like to give my deep appreciation to Ms. Miyazaki, the program leader, and other participants who worked very hard even during the summer vacation to prepare for the program.

## Council No. 2

To live lovely

Hiroko Hatanaka, 1st Vice-President

We introduce the program of Rokko Club Program (1989 Jan.).

The theme was 'To live lovely.' Six panelists delivered speeches on the six different genre in a panel discussion.

1. Health—How to control our life intentionally.
2. Food—Take vitamins, minerals & fibre and also various kinds of foodstuff.
3. Economy—Control our property under three categories (Real Estate, Bonds, Cash).
4. Human Relations—Dare to get together with

沢山の種類の食品を毎日とろう。 3. 経済面から……財産の3分法(不動産、債券類、現金)について。 4. 人間関係について……若い時から、人の輪にはいり、苦勞するのが良い。 5. 趣味面から……趣味を深めて社会に還元することができればどんなにすばらしいか。 6. 私の健康法……まず歩くこと。など —。楽しく有意義だった。

人はたくさんのレッスンを重ねて、美しくなっていくといわれます。ITCメンバーとして、さらにレッスンを重ね、さらに美しくなっていきたいとおもいませんか。

### カウンスルNo. 3

#### 今年のパログラム計画

- 第1副会長 鷺見美千子  
 第1回例会 講演会 講師 八木垂夫先生  
 (毎日新聞編集局次長)  
 題目「近頃の日本語」  
 講演の後グループ毎(10人位)でディスカッションを行い、後、質疑応答約30分間する。
- 第2回例会 パネルディスカッション  
 論題「人間性豊かな日本人を育てるための教育とは」
- 第3回例会 スピーチコンテスト、エンターテイメント
- 第4回例会 役員交替式、役員研修、朗読
- 第2、3、4例会でクラブインタビューも行います。これは1回に2クラブずつ、代表者が出てインタビュー形式で行います。

### カウンスルNo. 4

#### カウンスルで学べること

- 第1副会長 山崎鈴子
- I. クラブアピール 各クラブ5分
- II. みんなで学ぶプログラム作り a 議事法 25分 b ヒューモアスピーチ 5分  
 c パネルディスカッション 25分  
 d インタビュー 20分 e 評価 25分
- 「クラブアピール」では所属6クラブが会長を中心に工夫を凝らし持ち時間5分をフルに活かしたクラブ紹介をしました。「みんなが学ぶプログラム作り」では各クラブよりリーダーを決め、楽しく学べるよう依頼し、リーダーより提出された資料は一冊にまとめました。
- 議事法 — NHKの「クイズ百点満点」をモデルに会場は赤い帽子で賑わいながら議事法に

many people when young.)

5. Hobbies—How nice to contribute to our society through hobbies.

6. My way for keeping healthy—Take a walk, etc.

I found the program both interesting and significant. It is said a person becomes more lovely year by year through various experiences.

Don't you want to train yourself and to be more lovely as a member of ITC?

### Council No. 3

#### 1989-1990 Program Plan

Sumi Michiko, 1st Vice-President

The 1st Regular Meeting—Lecture

Lecturer: Mr. Tsugio Yagi

(Asst. Editor, Mainichi Newspaper)

Theme: Recent Japanese

There will be discussions for each group (Approx. 10 members) and a question & answer time for about 30 minutes after the lecture.

The 2nd Regular Meeting—Panel Discussion

Theme: How can Japanese be educated to be warmhearted?

The 3rd Regular Meeting—Speech Contest, Entertainment

The 4th Regular Meeting Installation ceremony, Workshop for new officers, Oral Reading

We will also have club interviews during the 2nd, 3rd, 4th Meetings. The representatives of two clubs will interview each other at every meeting.

### Council No. 4

#### What we can learn in the Council

Suzuko Yamasaki, 1st Vice-President

1. Club appeal 5 minutes by each club, 2. How to make programs every member can learn with, a. Rules of order 25 minutes, b. Humorous speech 5 minutes, c. Panel discussion 25 minutes, d. Interview 20 minutes, e. Evaluation 25 minutes. In the first section of the club appeal, 6 clubs introduced their clubs with each president as a leader, making the best of their time of 5 minutes.

In the second section, we selected leaders from each club and asked them to enjoy learning. The materials submitted by each leader were filed in one book. Rules of order were worked on with the TV program "Quiz. That's Perfect." as a model, and we enjoyed it very much while wearing red hats just as the participants in the TV programs did. The humorous speech was effective as a kind of break after working on the rules of order, a difficult agen-

取り組みました。ヒューモアスピーチ — 難しい議事法の後、息抜きにとても効果的でした。3分間のスピーチは笑いの連続で会場を和ませました。パネルディスカッション — モデレーター、パネラーが「私がITCをやめたくなった時」のテーマでしっかりと分かりやすくディスカッションしました。

インタビュー — リーダーがインタビューとはの説明をし、その中で実際にインタビュアーが会場の参加者に「良い例」と「悪い例」に分けてインタビューしました。評価 — 評価についてリーダーが説明しプログラムの中のインタビューを評価の対象に会場の中より評価者に即席で評価を依頼しました。

#### カウンスルNo. 5

##### プログラム

第1副会長 辻本初枝  
クラブのプログラムを一つずつ紹介します。

大阪クラブ:

パネルディスカッション(女性のバラ色年代)

北大阪クラブ:

リサーチスピーチ(51年前の大阪)

豊中クラブ:

視覚補材を使って(古墳の写真等を見せて)

南大阪クラブ:

自己紹介、他国紹介

城北クラブ:

朗読(元アナウンサーによる指導と講話)

梅田クラブ:

百人一首、現代英訳と解説スピーチ

#### カウンスルNo. 6

##### リサーチレポート

第1副会長 高橋雅子

今期プログラムは、①クラブ間のコミュニケーションの輪を広げる。②メンバーがプログラムに参加することによって楽しさを増す。③教育をかねた多様性のあるもの。を目的として第1回例会のプログラムは、リサーチレポート(調査に基づく報告)としました。題材は自由、クラブの特徴を生かす、地域性(社会性)のあるもの、季節的なもの、音楽、絵、劇等を入れても良い、人数制限なし、所要時間は10分~13分以内としました。6クラブの順番は午前の部で、プログラムリーダーが各クラブ会長にインタビューの後、くじを引いて決めました。大学生の多い若いクラブは、「アンケート調査にもとづ

da. All attendants enjoyed the three-minute-long speeches with smiles and became tranquil. Panel discussion—we discussed sufficiently in a way easy to understand under the title of “When I felt like seceding from ITC.” presented by moderators and Panelists. Interview—After the leaders explained what the interview was, the interviewers interviewed the participants in the hall, telling them the difference between good ones and bad ones. Evaluation—After the leaders explained evaluation, we asked the participants in the hall to evaluate impromptuously the interviews made in the program.

#### Council No. 5

##### Programs

Hatsue Tsujimoto, 1st Vice-President

The following is one of the programs of each club:

Osaka Club:

Panel Discussion on Ages of Women

Kita Osaka Club:

Research Speech on Osaka 51 Years Ago

Toyonaka Club:

How to Make Use of Visual Aids

Minami Osaka Club:

Self Introduction

Shirokita Club:

Reading by a Professional

Umeda Club:

English Translation of *Hyakunin Isshu*

#### Council No. 6

##### Research Report

Masako Takahashi, 1st Vice-President

Our goals for 1989 are as follows:

1. To broaden communications among the clubs.
2. To encourage member participation by involving them in the programs.
3. To be educational and to offer a variety of activities.

Each club reported its research result at this first meeting.

The themes of the reports were chosen freely, but they had to be characteristic of both the club and the community. Music, pictures and plays were allowed to be used for the reports. There was no limit to the number of people involved, but the time given for each report was 10–13 minutes. In the morning a program leader interviewed the club leaders and then the order of the presentation of the reports was decided by lot.

くサタデークラブの特徴」、北摂クラブは、所在地「水無瀬について」レポートとその地に因んだ歌を合唱、都クラブは、「都のむかし」平安朝の公家の女性の日常生活から流行の源泉、美人の要素等エトセトラ、奈良クラブは「奈良今昔物語」として現代の鹿の話、昔の奈良の様子、大仏、聖徳太子等に扮した人物が現われ、それをリサーチして発表、京都クラブは「京野菜について」実物を展示、スライドで種類別にレポーターを変えて説明、平安クラブは「アーネスティンホワイト女史へのアドバイス from 平安」アーネスティンホワイト女史に扮する人に、生活のリズム、食事のバランス、適度な運動、とそれぞれのレポーターによる報告が展開されました。

#### カウンスルNo.7

##### 私達のワークショップ

第1副会長 深澤 志津子

チャーター間もないクラブの多いカウンスルNo.7では、例会にワークショップを多く取り入れています。第一回例会(1988.10.24)において、次の五つのワークショップを持ちました。①議事運営法 ②聴き上手になりましょう ③ストーリーテリング ④儀典・接待 ⑤ディベート

このディベートのワークショップには反応が多くあり、各クラブでも教育にとりあげられました。そこで第三回例会(1989.4.20)において実際にディベートを行いました。

第一の論題は『お歳暮は廃止すべきである』肯定側に米子クラブ3名、否定側に倉吉クラブ3名の会員が選ばれました。肯定側は、お中元は廃止すべきであるという論点に立ち、当時新聞紙上をにぎわしておりましたリクルート問題にも言及し、アンケートにもとづく肯定の論旨を述べていました。否定側は、中元・歳暮は中国に始まったという歴史をひもとき、あ

The names of the clubs and the themes of the reports were as follows:

Saturday Club (young members including many college students)

"The characteristics of the Saturday Club as determined by a questionnaire"

Hokusei Club

"Report on Minase (location of the Club)"

In addition to the report, songs were sung which are characteristic of the town.

Miyako Club

"Ancient Capital"

A report was given on women in the aristocracy of the Heian period, treating subjects ranging from their daily lives to fashion and beauty standards.

Nara Club

"Stories of Nara, new and old"

A report was presented on the deer in Nara today as well as on Nara in ancient times. In the report, some members played the roles of the Great Buddha and of Shotokutaisi.

Kyoto Club

"Vegetables of Kyoto"

Vegetables of Kyoto were exhibited. Each kind of vegetable was explained by a different reporter using a slide projector.

Heian Club

"Advice from Heian to Mrs. Ernestine White"

A member played the role of Mrs. Ernestine White and discussed the rhythm of daily life, and the importance of a balanced diet and moderate exercise.

#### Council No. 7

##### We Enjoyed Debate

Shizuko Fukazawa, 1st Vice-President

We, Council No. 7, held workshops many times at our regular meetings because we had many newly-joined clubs. At our first regular meeting (Oct. 24, 1988), we held the following five workshops: (1) Parliamentary Procedure (2) Effective Listening, (3) Story telling, (4) Protocol and Hospitality, and (5) Debate.

There were many responses to the debate; therefore it was taken up at each club's education time. Then, we actually had a debate program at our third regular meeting (April 20, 1989).

One title was "The Year-end Gift (*Oseibo*) Should Be Abolished." Three Yonago Club members (affirmative side) debated with three Kurayoshi Club members (negative side). The affirmative side also referred to the "Recruit Problem" which had often appeared in newspapers at that time. They insisted that the year-end gift and also the mid-year gift (*Ochugen*) should be abolished, based on their questionnaire. The negative side explained that the historical background of these gifts originated in China and then came to Japan. They refuted the argument, insisting that it is a social custom and also a means of expressing our feelings.

くまでも社会の秩序、気持ちの表し方としてとりあげ廃止すべきでない」と論破していました。

第二の論題は『使い捨て商品は廃止すべきである』肯定側に松江クラブ3名、否定側に鳥取クラブ3名の会員が選ばれ議論しました。肯定側は使い捨て商品は廃止すべきであるという立場に立ち、便利さにおかれて使い捨て商品が数多く使われている現在の社会状況を憂い環境汚染を心配して、それゆえ廃止すべきであると述べていました。否定側は女性にとってなくてはならない生理用品、寝たきり老人の看護にはかかせない紙オシメのありがたさを説き、使い捨てによるゴミの持つ熱カロリーの再利用等、数字をあげて論破につとめました。

The other title was "Disposable Goods Should Be Abolished." Three Matsue Club members (affirmative side) debated with three Tottori Club members (negative side). The affirmative side insisted that disposable goods should be abolished. They worried about the present social situation because of the increased usage of disposable goods, which are convenient. They also worried about environmental pollution caused by using them. The negative side insisted that sanitary items for women are indispensable and that paper diapers for bedridden old-people are indispensable, too. They refuted the affirmative argument by showing figures that the disposable goods could be converted into thermal energy and recycled.

---

## 会則とおつきあいの一年

---

前期カウンスルNo 2

会則決議委員会委員長 藤本博子

カウンスル分割前、分割によって新たに発足するカウンスルの会則草案に必要と、リージョンに標準カウンスル会則の翻訳を申し入れたところ、非常に短期間で日本語訳されたものが発行されました。その標準会則と、そのときのNo 2会則を照合し、根本的な意味の違いはないものの、ここ数年の間に、構成、編集の上で多く変更されていることに気がつきました。改正に踏み切ったのは、小さいながらも、何箇所にも及ぶ変更を今修正せずにおくと、今後、会則の標準会則との照合が非常に困難なものになると考えたからです。

標準会則をもとにして委員会で作成した改正案と、修正案提出用紙を、第1回カウンスル例会でカウンスル派遣員を通じて配布し、改正案に対する修正を検討するため、役員会の協力を得て、クラブ有志の参加による、会則改正検討会を開きました。クラブをこえた意見の交換に、非常に大きな収穫を得、修正案提出期日までに、60を超える修正案、及び提案が提出されました。修正案は、規定の用紙に必要な情報がすべて記入されたため、委員会の作業は煩雑さがなく、会則に記された期限を遅えることなく、採択まで事を運ぶことができました。

第2回カウンスル例会では、逐次審議の形式で事務が執り行われ、時間切れによって残った作業は、採決によって継続会議に持ち越されました。そこで、全クラブのカウンスル派遣員の出席によって新会則が採択され、委員会は、出版作業に入りました。委員会が日英両語のワープロ入力をし、全クラブに校正を依頼し、第3回カウンスル例会で配布できるよう同時に注文部数を確認しました。

日英両語を使用するカウンスルNo 2の会則は、必ず日本語と英語が対応したものでなければならぬことから、一字一句検討され、ITC本部で発行された標準会則原本に見直しを必要とする点、翻訳するときの留意点、また提案など、カウンスルのレベルを超えた指摘もあり、それについては、それぞれのレベルに提出し、すでに適切な解決が成された点もあります。

会において最高の権威をもつこと、会員の権利と義務を規定すること、常規のように一時効力停止や無視ができないことを考え、会員一人一人の慎重な考察を経てカウンスルNo 2会則が、今、機能しています。

## The Year I Felt Intimate with Bylaws

Hiroko Fujimoto, Former Chairman of Council No. 2 Bylaws and Resolutions Committee

Before division of Council No. 2, considering it would become necessary to prepare a draft of the bylaws of new Councils to be, the Bylaws Committee asked the Japan Region to translate the Standard Council Bylaws into Japanese. The response was tremendously quick and beautiful, and the translation was published. Of course, the Council No. 2 Bylaws were checked and studied and at the same time compared with the translated Standard Council Bylaws, and many editorial changes were found made through the years. The idea to revise our Bylaws become a fact, since the committee thought it would be next to impossible to compare Council No. 2 Bylaws and the Standard Council Bylaws because in a few years many changes will be necessary.

The Bylaws Committee prepared the proposed revision of the bylaws based on the Standard Council Bylaws and prepared a form for proposed amendments to the revision of and submitted each club's Delegate to Council at the 1st regular Council Meeting. The study meeting of revision of the Bylaws was held with the help of Board members and club members who wished to attend. Exchanging members' ideas and opinions beyond clubs brought a fruitful result on proposed amendments. Though over 60 proposed amendments were received, no complicated work was left for the committee, since each was perfectly written on the prepared form. Everything was carried out in time as the Bylaws provided.

At the 2nd Regular Council Meeting, the revision was considered seriatim. The remaining items, as a result of limitation of time, were brought into an adjourned meeting by adoption. There, all the clubs' Delegates to Council attended and adopted the new Bylaws. Then the committee began publishing the work. The new Bylaws were printed both in Japanese and English using a word processor. A copy was sent to each member club for proofreading. At the same time, the committee received orders to make it convenient to prepare the copies of Bylaws before the 3rd Regular Council Meeting.

Since the Bylaws of Council No. 2 had to be in two languages, perfectly corresponding to each other, the revision was studied word by word. Through this careful work, members gave some recommendations to change the original Standard Council Bylaws, and suggestions effective for the translations stage, which were beyond the Council work. These recommendations and suggestions were sent to each level, and some were accepted.

Each member seriously considered the revision, reflecting that the bylaws were the supreme authority for the group, stating the rights and duties of members, and they are never suspended or ignored like Standing Rules. Thus, the revised Council No. 2 Bylaws are now in effect.



### Prayer for the New Year

By Elizabeth Searle Lamb

Dear God, let there be  
new beginnings in my life  
to match the beginning  
of this new year.  
Let there be new health  
in my body and new strength  
to fill my waking hours,  
a new peacefulness to sleep.  
Let all the old loves  
now be renewed in joy  
while the old problems  
fade with the fading year.  
Dear God, let there be  
happy surprises now  
to match the fresh sun's rising  
in this new year!

## 随 想

# あ る 日 の 私

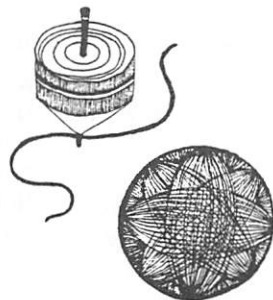
九州クラブ 高 橋 鶴 子

「ようこそAスタへ。今日のお客様は、人間国宝竹本住大夫さんを大分へ招いて、『芸談と素浄瑠璃の会』を催される、その仕掛人ともいえる高橋鶴子さんです。こんにちは、♪」良く通るトーンの高い声で女性アナが私を紹介します。私も負けずに若ぶった声で答えました。「こんにちは、♪」ライトの光の中、ちょっと晴れがましい気分です。

そこはOBS大分放送のAスタジオ。土・日を除く毎日午後の生番組「おおいた230」の適当な客を探している局側と、今、何処でも誰にでもまるで選挙運動の人みたいに頭を下げ、宣伝これ努めている私の希望が一致してのテレビ出演です。「どうして又国宝をお呼びしてこんな会を？」とありふれた質問ながら、私には答えない事、話したい事が山とあります。「素浄瑠璃の会は人形無しの地味なものです、浄瑠璃を楽しむのにはむしろ人形に気をとられず、想像の世界に没入出来、誠に結構なものでございます。その良さを知ってもらうには何としましても一流の方に来て頂き、大分の方々にその究極の芸を味わって頂きたかったのです。」「なるほど。高橋さんは日本の伝統芸能を大切にされているとか。」「はい、去年九州文楽同好会を作りましたし、今度公演のある聴潮閣では、食と建築の文化のみならず歌舞音曲の文化をも提供出来る場としたい、特に忘れ去られそうで素晴らしいものを残していく事に微力ながら尽したいと思って居ります。」

この聴潮閣とは、夫の祖父が昭和初期、別府の海岸に客用と自室として建てた家を移築したもので、今年初め食事処と喫茶店としたものです。慣れないこの仕事に加えて、こんな大それた催しを企てるものですから、ITCの例会に出席も儘ならないこの頃なのです。

この後も文楽の魅力は？見方は？と問われ、あれもこれもと思いのたけを述べたくはあれど持ち時間は残り少なく、何せ生ですからFDさんも必死で巻いていますし、簡単明瞭まああの出来で終りました。終了後「お話、お上手ですね。」と賞めて頂きました。そこで、実はITCという会がありまして……と例によって一席。ITCの不良会員も、たまには優等生をしているのです。ある日の私でした。



## One of my days

Hatoko Takahashi, Kyushu Club

“Welcome to ‘A’ Studio. Today’s guest is Mrs. Hatoko Takahashi. She is the lady who is inviting a Living National Treasure, Sumidaiu Takemoto and promoting the event, “Meet Sumidaiu and listen to his interpretation of his Art as a Jyoururi player, then enjoy listening to his performance.” A young woman announcer introduced me with a high-tone clear voice, and I replied to her with my voice pretended to be as young as I could.

I was at the ‘A’ Studio in the OBC Ohita Broadcasting Co., right in the bright shower of spotlights, getting a little bit excited, and presenting the afternoon program which was broadcasted everyday except Saturdays and Sundays.

“Why did you choose the this Living National Treasure as the guest speaker?” Although the question was rather ordinary, I had plenty of things to answer. “The meeting is planned to listen strictly to Jyoururi talk without combining a puppet performance. This enables listeners to concentrate on Jyoururi talks and to induce themselves into the world of imagination. In order to allow the people in Ohita to understand this wonderful art, I thought I needed to have a first-class artist in this field to show the audience of Ohita the ultimate performance.”

“I see. Well, I understand you have highly appreciated Japanese traditional arts of any kind.”

“Yes, I organized EL Japanese Puppet Play Club (Bunraku Doukukai) in Kyushu last year and we are planning to promote a performance of the National Bunraku Troop in the near future. The place where the performance is going to be held is called Chyouchyoukaku, where not only the cultures of food and architecture are being presented but also the art of Kabuki music. Especially the arts, which are in danger of fading out, yet too precious to loose, will be presented there. And I will try to do my best to preserve good old Japanese traditional art.”

Incidentally, the building of Chyouchyoukaku was removed from Beppu. It was built near the seaside of Beppu by my husband’s grandfather partially for guests and partially for his own use early in the Showa Era. Early this year, I opened a restaurant and a tea room there and this has kept me so busy I hardly find time even to attend ITC’s regular meetings.

Although I was asked many other questions, such as “What about Bunraku attracts you most?”, “How can one enjoy Bunraku?”, and so forth, I ran out of time to answer all the questions I had been asked since it was a live broadcast and the time had been tightly limited. But I am glad to say that I answered all the questions clearly and precisely. After the program, I was told that I spoke very well. So I told them how I have achieved better communication with the members of ITC. You see, a bad ITC member can turn out to be a good one—sometimes. This is one part of my life in Kyushu lately.

## リージョン会報 1 号に追加

リージョン会報 Vol. 8 No. 1 に対して、カウンスル Na. 6 の各クラブより年間テーマの原稿を日英両語でいただいておりますのに記載もれしておりました。おわび申し上げます。

P.43に下記のように補足してください。

### Addition to Region Magazine No. 1

Editors missed to print the yearly themes of the clubs in Council No. 6 on Region Magazine Vol. 8, No.

1.

Please put the following themes of each club in Vol. 8, No. 1, p. 43.

京都クラブ	Kyoto Club: Refresh Your Mind
平安クラブ	Heian Club: Spread Your Wings Widely
都クラブ	Miyako Club: Harmony
奈良クラブ	Nara Club: An Inductive Communication Rings Our Hearts
北摂クラブ	Hokusetsu Club: Let's Try Challenging Programs
サタディクラブ	Saturday Club: Go Ahead!

## 編 集 後 記

● 編集後記を書いています今、世界は大きくかわりつつあります。こんなことがありました。1968年8月、ワルシャワ条約軍の演習とのことでソ連軍が東独に集まっていると聞いていたある朝、デュッセルドルフの自宅のラジオが突然、戦車部隊のプラハへの侵攻を伝えました。第一報とともに、会社の駐在事務所へ飛んでいった主人は、チェコ現地への出張者との連絡を終えて夜遅く、帰宅した。プラハ市内に滞在中の東京本社の商談ミッションは、ホテルの窓から戦車の発砲を見たこと、そのホテルへも銃をもった兵隊が乱入するなり電話線をひきちぎったこと、テレックスはタイプライターと思われたらしく夕方まで通信できたことなど話してくれました。プラハに春が訪れるのに何と21年もかかったのです。

新しい年、1990年、今こそ本当の春が来るのを祈っています。

- コミュニケーターの翻訳文が別冊になったことで、原文とてらし合わせるできるようになり読みやすくなったというご意見を沢山いただきました。編集委員一同嬉しく思っています。
- 今回、2号には新しい試みとして「ある日の私」という頁を設けました。会員の方々の素顔をご紹介したいと思っています。みなさまの随想をお待ちしています。
- 次号には、日本リージョンの組織の活動や運営について質疑応答をのせたいと思います。ご意見ご質問をお寄せください。
- 2号より高橋俊子さん（六甲）にも編集に加わっていただいています。

リージョン編集委員会 立花真琴（神戸）  
  ジーン・ジョイス（阪神）  
  臼村治子（神戸）  
  立花祐子（神戸）  
  高橋俊子（六甲）

### Postscript

I am now writing this postscript with a feeling that a great surge of change is presently sweeping the world. I had a following experience. One morning in August 1968, some time after we heard that the Soviet army had been gathering in East Germany for a pretended military exercise with the Warsaw Pact forces, we heard our radio at our home in Düsseldorf reporting a sudden intrusion of Russian tanks into Prague.

With this first news, my husband rushed to close his liaison office, and came home very late that evening after having finished communications with Japanese visitors in Prague. He told me that company's trade mission from Tokyo who had stayed in a hotel in Prague saw the Russian tanks had fired guns, and soldiers dashed into the hotel building and cut telephone lines; however, the Telex continued working until evening as they were thought to be typewriters. It took more than 21 years for the people in Prague to have real Prague spring.

We truly hope that the year 1990 will be a real new spring year to enjoy.

We have been pleased to hear many happy responses from readers to the separate translation of *Communicator* which has made it possible for them to enjoy articles in both English and Japanese.

Starting from this second issue, a new column titled *One of my days* is opened for you readers to allow you to introduce some interesting portraits of yourself. We are waiting for your articles.

In our next issue, your questions about the organization and administration of ITC Japan Region will be answered. We will welcome your comments and questions. Ms. Takahashi (Rokko Club) has joined us as an editor this second issue.

ITC Japan Region Editing Committee: Makoto Tachibana (Kobe Club),  
Jean Joyce (Hanshin Club), Haruko, Usumura (Kobe Club),  
Yuko Tachibana (Kobe Club), Toshiko Takahashi (Rokko Club)

愛・平和・希望の年  
The year for love, peace and hope.